

# 平成20年度 病害虫発生予察情報 注意報第1号

平成20年5月1日  
島根県

タマネギべと病が県下各地で発生しており、発病程度の極めて高い圃場が確認されています。今後タマネギの肥大期に当たり、病勢の急速な進展が懸念されますので、注意報を発表します。現地では圃場の発生状況を把握し、防除の徹底をお願いします。

記

1. 作物名 **タマネギ**
2. 病害虫名 **べと病**
3. 発生地域 **県下全域**
4. 予想発生量 **多**



## 5. 注意報発表の根拠

- 1) 4月30日の調査では、発生圃場率が22.7%（平年12.2%）と平年を大きく上回り、平均発病株率は6.2%（平年0.38%）と過去10年間で最も高い。
- 2) 発病株の病斑上には分生胞子が多量に形成されており、今後さらに感染の拡大が予想される。
- 3) 今後の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

## 6. 防除対策および防除上の注意事項

- 1) 感染防止のため、薬剤による徹底防除を行う。
- 2) 球の肥大期ごろには抵抗力が急速に低下し、病勢が進みやすい。

## 7. 薬剤防除

### 1) 種類および濃度

◎発生が見られる圃場では、以下の薬剤を用いる。

(薬剤名)	(使用基準)
*リドミルMZ水和剤 500~750倍	収穫 7日前まで / 3回以内
*リドミル銅水和剤 400~600倍	収穫 7日前まで / 3回以内
*フォリオブラボ顆粒水和剤 1,000倍	収穫 7日前まで / 3回以内
フェスティバルM水和剤 750~1000倍	収穫 7日前まで / 3回以内
フェスティバルC水和剤 600~800倍	収穫 7日前まで / 3回以内

注) \*印の薬剤はフェニルアマイド系薬剤である。耐性菌を出現させないために、これら薬剤の連用および輪用を避ける。

◎未発生圃場では、予防のために以下の薬剤を用いる。

(薬剤名)	(使用基準)
ホライズンドライフフロアブル 2,500倍	収穫 3日前まで / 3回以内
カーゼートPZ水和剤 1,000倍	収穫 3日前まで / 3回以内
ランマンフロアブル 2,000倍	収穫 7日前まで / 4回以内
ヨネボン水和剤 500倍	収穫 7日前まで / 5回以内
ビスダイセン水和剤 400~600倍	収穫 21日前まで / 3回以内
ダコニール1000 1,000倍	収穫 7日前まで / 6回以内
フロンサイド水和剤 1,000~2,000倍	収穫 7日前まで / 5回以内
**マンゼブ水和剤 400~600倍	収穫 3日前まで / 5回以内

注) \*\*印の薬剤名は一般名であり、該当薬剤は複数あることから、使用に当たっては登録内容をよく確認する必要がある。

### 2) 散布時期および回数

発生圃場では、同一薬剤の連用は避け、5~7日おきに2回以上防除する。また、未発生圃場では7~10日ごとに予防散布を行う。降雨後はできるだけ早く薬剤散布を行う。

### 3) 散布量

10a当たり100~300g（薬剤により指定がある場合にはそれに従う）。

なお、薬剤の使用に当たっては、農薬の使用基準ならびに本県農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。